

佐賀産中晩柑のニューフェイス

佐賀果試34号の植え付けと育成管理

佐賀県果樹試験場 品種開発研究担当

八田

聡



第1表 佐賀果試34号の果実分析データ

	分析日	横径(mm)	果重(g)	糖度	酸度
佐賀果試34号	H14.1.22	86.7	317	13	0.98
不知火	H14.1.26	80.7	265	13.4	1.52

本県においては、食味が良く糖度が高いことから消費者の評価が高い「不知火」が各産地に導入され、平成一六年には栽培面積は二三八haと急速に拡大してきました。

しかし、この「不知火」は樹勢の低下に伴なう減酸不良、果実の小玉化などの問題が産地で発生しています。このような中で佐賀県果樹試験場では「不知火」と同等以上の品質を持ち、露地栽培でも一月中旬からの出荷が可能な新品種「佐賀果試34号」を開発し、平成一四年度に品種登録出願をしたところである。

「佐賀果試34号」の特性

今年三月の約一万本の試験配布、さらに平成一九年三月の本格配布を控え、今回は「佐賀果試34号」の育成管理について述べたいと思います。

佐賀果試34号は「不知火」の珠心胚実生の中から優れた個体を選抜し、育成した品種で、次のような特性をもっています。

- (1) 不知火に比べて樹勢が強い。
- (2) 不知火に比べて成熟期が早く、育成地で一月中旬頃。
* 熟期は栽培地、栽培条件で前後します。
- (3) トゲは若干発生し、特に育成一〜二年間は長い。
しかし、結実を開始するとともに目立たなくなり、大きな問題とはならない。
さらに次のような栽培上の注意点があります。

(1) 結実初期は着花量が少ない恐れがあり、特に加温ハウス栽培では注意を要する。

(2) 樹勢を維持し、減酸を安定させるために苗木の増殖が必要。以上の点に注意すれば、栽培方法

は「不知火」と基本的に同様でよいと思われます。

開園と植付け

第2表 苗木、幼木の施肥基準 (g/樹)

肥料成分	1年	3年	5年	7年	施肥量の配分
窒素	90	150	180	210	各樹種の施肥時期と配分に準ずる
リン酸	54	90	108	126	
カリ	54	90	108	126	

※ 植栽本数などの関係で、成木園の施肥量を越える場合は、成木園の施肥体系とする。

適地条件

「佐賀果試34号」は「不知火」と同様に植栽にあたっての温度条件は温暖な平均気温一六〜一七℃、最低気温が一三℃まで下がらない場所を選んでください。

耐寒性は温州ミカンより劣るため寒気が溜まりやすいところは避けてください。

耕土が深く、日当たりの良い土地

中晩柑全体に共通することですが、

夏場に旺盛に果実肥大します。

そのため耕土が深く、腐植が多くて保水力や保肥力に優れる「肥えた」土で、夏場乾燥しにくい土地がおすすめです。

止むを得ず耕土の浅い場所に植栽する場合は、堆肥などを投入して土壌改良に努めると共に、かん水やマルチなどを行なって夏場の乾燥に注意してください。

糖度が高い果実を安定して収穫するためには十分な光合成量を確保することが必要であり、そのためには

日当たりの良い所が適しています。

また風が強いところは風傷が入りやすいため、防風ネットなどを設置して風を防ぎます。

植栽計画

植栽間隔は土壤条件、地形条件及び管理方法等によって異なりますが、作業性の確保や樹勢を考慮すると、一般的な中晩柑類に準じて、成木で植栽距離五〜六m、植栽本数四〇〜二七本程度を基準とし、苗木定植時にはその二〜四倍量とします。

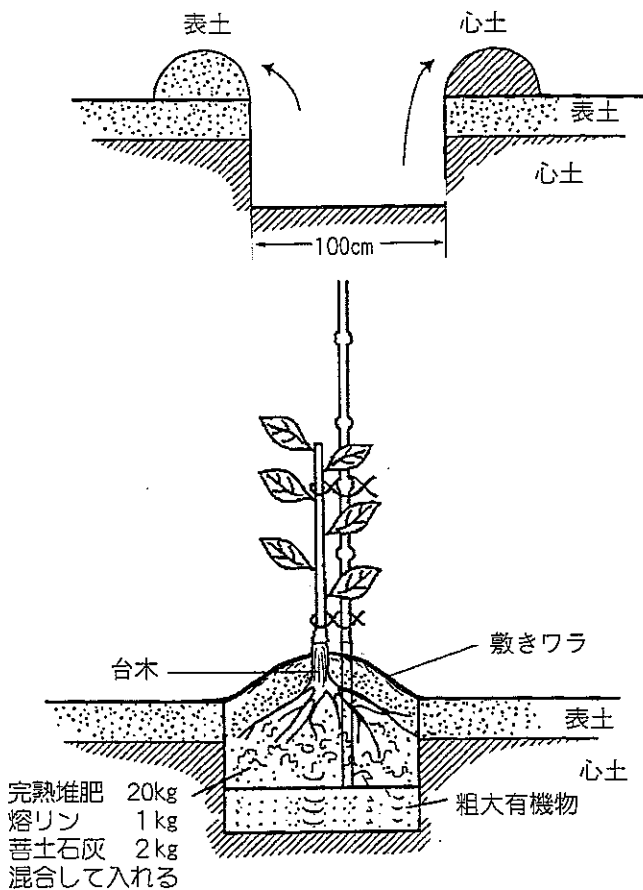
定植の時期

定植は発芽前が適しており三月下旬から四月上旬が適しています。しかし近年の温暖化により発芽開始が早まっており、準備は早めに行っておいた方がよいでしょう。

植え穴の準備

植付けに当たっては、植え穴は直径一m、深さ六〇cm程度を掘り、底の部分に粗大有機物を三〇cmほど入れ、その上に完熟堆肥二〇kg、熔リン一kg、苦土石灰二kgを土と混ぜて入れます(第一図)。

植付けの高さは、有機物が腐って沈下した時、深植えにならないよう十分な高さにする必要があります。また改植の場合は前作の残根はで



第1図 植え穴の掘り方と植え方

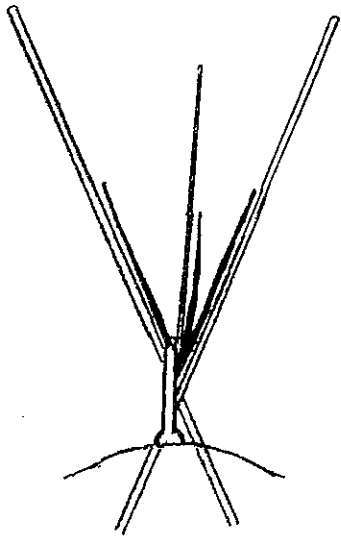
きるだけ除去します。

植え穴は排水に注意し、降雨後に水が停滞する様であれば排水溝を設けたり暗きよを埋設して排水をはかります。

苗木の準備

今回、苗木は掘り上げられた状態で来るものと思われませんが、もし掘り取りを行なうのであれば細根を多くつけることが大切です。

ついできた土は落とさず、できるだけ早く定植することが望まれます。もし、植付けまでに日数が開くようであれば冷暗所に保管し、霧吹きなどで根に湿り気を与え、乾燥させ



第2図 苗木の主枝の誘引法

ないことが重要です。

苗木の切り返し

今回配布される「佐賀果試34号」の苗木はほとんどが一年生です。

そして次年度増殖用の穂木を採取されて、接木部から三〇cm位が残った状態であればそのまま定植します。もし、長いままならば接木部から二五〜三〇cmのところまでせん定します。

夏枝と春枝の境は輪状芽といわれるたくさんの芽がついており、その上で切り返すと枝がたくさん発生し伸びが悪くなります。

輪状芽の下かあるいは夏枝のしつかりした芽があると、ここで切り返します。

植付け時の注意

盛土部に根を広げられる程度の穴を掘って苗木を置き、根を十分に広げて細かく砕いた土を隠れる程度に覆土します。

この時、根を乾燥させないように注意し、傷ついた根は切り返して細根を多く残します。そして根を良く広げて丁寧に

土を入れます。

植付け後は十分にかん水し、根と土を密着させ、根が露出したところには覆土をします。

土壌乾燥防止と抑草のため、敷ワラや黒マルチを敷いて乾燥を防ぎます。その際に支柱をして主幹をしつかり誘引すると活着が良くなります(第一図)。

植付け後の管理

◆かん水

定植後は一〇〜一五日おきにかん水し、夏季には土の乾き具合を見て適宜かん水します。

◆施肥

活着後一樹当たり窒素成分で一〇g程度の有機配合肥料を施用します。更に一〜二ヶ月おきに四、五回緩効性の肥料(油粕または有機配合肥料など)を施します(第一表)。

また、「不知火」同様に新梢葉が枯死する症状が懸念されるため、発芽前〜伸長期にかけて水溶性カルシウム剤と窒素成分主体の葉面散布剤を数回散布します。

整枝と新梢管理

新梢が発生したら主枝候補の枝三〜四本を選び、支柱をして誘引を行

ないます。

誘引する枝は、基部は横向きにし、先端は立てておくこと新梢の伸長が旺盛になります。

また芽かきを念入りに行い、主枝の先端は他の枝より常に優位にあるようにします(第二図)。

病害虫防除

かような病防除を中心とした防除を行ないます。

発芽前(三月中旬頃)にICボルドー66Dの六〇倍かクレフノン二〇〇倍加用コサイドDF二、〇〇〇倍を散布します。

五月上旬にもコサイドDFを散布します。

六月からの梅雨期は積算降雨量が二〇〇〜三〇〇mm毎にコサイドDFを散布します。

アブラムシは春芽伸長期に防除し、以後夏芽伸長期以後はミカンハモグリガと同時防除します。

アドマイヤーフロアブル二、〇〇〇倍などを散布してください。

アゲハがいる場合はモスピラン水和剤二、〇〇〇倍などで防除してください。

その他の病害虫に対しては不知火の防除暦を参考に適宜防除してください。